JAFCO

投資仮説レポート 第 5 号

AI による組織の在り方の地殻変動

～スタンスの重要性の高まり～

ジャフコ グループ株式会社

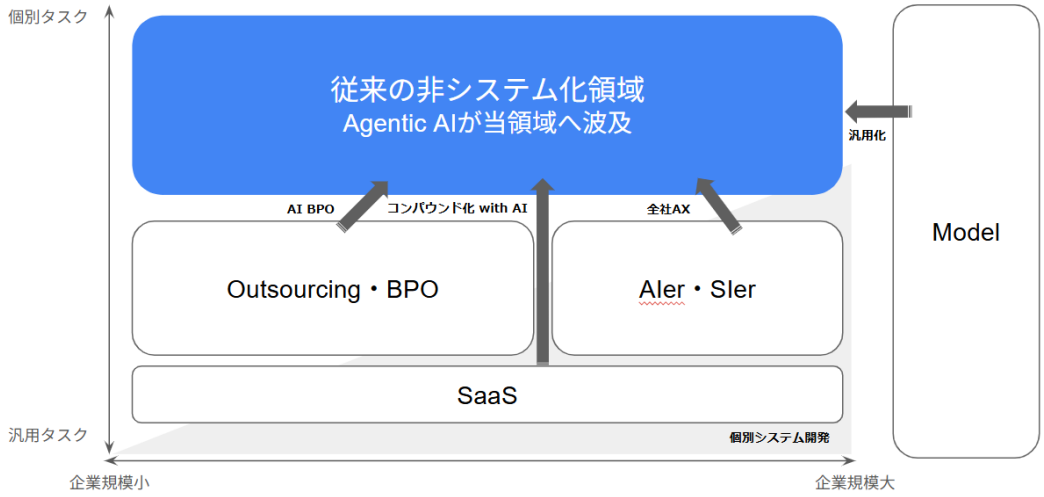
領域特化投資プロジェクトチーム

2026 年 4 月

Agentic AI による労働力市場への浸食

2026 年は、AI が本格的に労働力市場へ進出した元年ともいえる年になるだろう。
未だシステム化されていない、微細なタスクを含めて、AI による自律的に近い形での実行が加速しているのだ。
米 Anthropic が 2026 年 2 月に「Claude Opus 4.6」をリリース[i]。従来、エンジニアをメインターゲットとした Coding Agent として猛威を振るっていた同社モデルが、非エンジニアも含めて幅広いユーザーを捉えた瞬間といえよう。
次第にソフトウェアやデータは「Agentic AI のための設計」を前提とすることが求められ、これらが加速することで日常的に発生するタスクであるリサーチやドキュメンテーション、多様なデータ分析へ AI が適用を始めている。タスクの実行主体が人間或いは、人間とシステム、が一般的であった領域へ Agentic AI が進出しているのだ。

ワークフローの占有に向けた争奪戦が繰り広げられている



「従来システム化されていなかった領域」が存在したのには理由がある。
システム投資の ROI が合わない、構造上システム化できない、ヒトが実行したほうが早い、などが挙げられる。
一方、AI の登場と発展によって変化しており、当領域の獲得に向けた競争が激化している。

（従来の） 非システム化領域の争奪戦	システム投資のROIが合わない・構造上システム化できなかった 非システム化領域へ各社が参入
ソフトウェアやデータは AIのための設計へ	タスクの実行主体におけるAI比率が高まる 人間向けではなく、Agentic AIのタスク実行向けの設計へシフト
スタンスの 重要性が高まる	アウトプットやアプローチの一定レベルのコモディティ化が進む 組織のスタンスがアイデンティティとなり、 集う人材・単価・粗利率へこれまで以上に影響するようになる

このような競争が進む中、モデルの開発は止まることなく加速し続け、「継続学習」や、「強化学習」等に向けて日々多くの投資がなされている。このような競争・モデル開発が進んだ先に、どのような未来が待っているだろうか。
本書では、中長期の視点を以って重要と考えられる点を仮説として取り上げる。
共通するのは、「組織のスタンス」が競争優位の源泉としてより重要性を帯びていくという視点である。

「組織」・「個人」の再定義がなされる

AI Agent が労働力市場を侵食し、組織・個人の在り方に変化を及ぼす。
例えば、これまで特定のプロジェクトを遂行するために、10 名分の人工が必要だったものが、1-2 名の人間と数体の AI Agent で遂行できるようになる、といったものだ。人間は目的の設計や承認、責任を取る部分などヘリソースを配置し、実行を AI が担う、このような形でプロジェクトを遂行していく組織・個人が徐々に国内でも増えていくであろう。

ソフトウェアドリブンで解決できる課題については、アウトプットが次第にコモディティ化していく。（一定レベルにおいて）
故に、「バックグラウンド」・「アイデンティティ」・「（固有の）チームコンテキスト」の重要性が高まっていく。
そのため、組織としてのラベリング（どのような目的のもと、どのような人物が集っているのか）の価値がより一層高まる。
高い視座・巨大な挑戦をしていく強烈なビジョンがこれまで以上に優秀な人々を惹きつけ、結びつかせるだろう。
こうした変化は、組織の形、人間の介在価値、そしてデジタル上のアイデンティティ等へ波及していく。
以下、順に仮説を述べる。

競争優位の源泉に組織のスタンスが結びつく

バックグラウンド	アイデンティティ	チームコンテキスト
組織が介在する意味 実行主体と実行内容の意味	属人的な魅力 組織らしさ	強烈なビジョン・ミッション 組織で共有される固有の考え

ギルド組織の登場

ソロプレナー（個人で複数の AI Agent を稼働させ、プロジェクトを遂行していく企業体/個人）が登場している。
中長期では、このような人材が特定のビジョン・ミッションの下に集うギルド的な組織が登場するだろう。
このギルド組織は、人件費・外注費の市場を侵食しながら、高い生産性によって従来では考えられない高利益率で成長していくポテンシャルを秘めている。

By Human の記号的価値

「誰が介在したのか」という視点が価値の源泉としてより重要となってくる。人間が介在することによる特有の質感、温度感、不完全さ自体が記号的価値となり、「Made by Human」が重要なものが登場するだろう。
たとえば、同じコンテンツでも、知っている個人が手掛けたのか、見知らぬ人物が手掛けたのか、AI で自動生成されたのかどうか等で受容のされかたが変わるようなものだ。

ミッションドリブンなコンパウンド

従来、特定の事業やプロダクト毎に部門が設立され、チームリード、マネージャー、メンバークラスが属する組織形態が一般的だった。一方、人間が AI を駆使し、アプローチできる課題、価値提供が広範囲となることで、ミッション起点で人員を配置し、各人がプロフェッショナルとして価値提供していくコンパウンド組織が登場する可能性がある。

デジタルアイデンティティへの渇望

自社のコンテンツが AI による回答出力結果に表示されやすくするための「AIO、AEO 最適化」に対する需要の増加など、「AI から望む評価を得ること」の重要性が高まっている。つまり、デジタル上でのアイデンティティや、生み出すアウトプットの固有性、価値を築き上げていくことが優位性に直結していく。承認欲求の過熱も進むだろう。

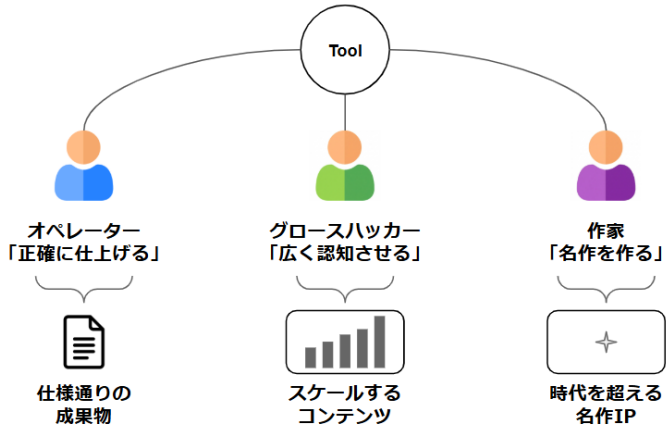
組織のスタンスが、最大の競争優位になる

強烈なコモディティ化

クラウド上で実行可能なタスクのコモディティ化が進む。リサーチ、資料作成、コード、分析、デザイン——AI Agent の進化により、アウトプットそのものの品質差は急速に縮まっている。では、何が差分になるのか。それは「何を作るか」ではなく「誰が」・「なぜ作るか」・「どのような意図を以って作るか」——つまり、その組織・人間のスタンスである。

これは新しい話ではない

従来から人類はツールを発明し、そのツールを基に各人が異なる角度で工夫を凝らし、価値を創出してきた。
例えば、クリエイティブ制作の場面では、一定他業界よりも利用ツールのスタンダードがある中、組織によって生まれるアウトプット、制作プロセス、集う人材、そして事業規模はまったく異なる。この差の本質は、ブランド＝ラベリングの差が影響因子として大きい。ラベリングの源泉を辿れば、それは組織のスタンスに行き着く。



この構造があらゆる領域に波及する

これまで、スタイルが競争優位に強く直結していたのは、クリエイティブやブランドビジネスなど一部の領域だった。
AI 時代では、あらゆる領域でこの構造が再現される。
アウトプットがコモディティ化するからこそ、

- その組織が何を優先し、何を捨てるか（＝意思決定の美学）
- 誰のために、なぜやるのか（＝存在理由の明確さ）
- どんな人間が集まり、どんな空気を持つか（＝文化の引力）

が、事業規模・人材の質・顧客からの選ばれ方を決定づけていく。

個人・スタートアップへの追い風

AI の本領を発揮するには、広い権限とデータへの自由なアクセスが不可欠である。
組織の規模が巨大であるほど、その自由度は構造的に制限される。
柔軟に、機敏に動ける個人や少数組織こそ、AI 時代において最も大きなレバレッジを効かせられる立場にある。
スタンスを持ち、明確に示す。それが、AI 時代における最大の競争優位になる。

人を惹きつけるスタンスがより一層求められる

前述では、AI の発展に伴い、組織・個人のスタンスの価値が高まる、という仮説を述べた。
これまで以上に知的労働のコモディティ化が進む中で、知性のみのアイデンティティでは勝負することが難しくなっている。
そうした中で、「如何に組織のアイデンティティを定義し、人を惹きつけ、競争優位を築き上げていくか？」というイシューに対して向き合うことが必要となる。
参考として、AI 系の企業がどのような考えを明確に打ち出し、訴求をしているのか、事例を挙げる。

Safe Superintelligence 「AI の安全性を常に先行させる」

「安全なスーパーインテリジェンス」という目標、製品を掲げ、AI の安全性を常に先行させながら、機能性を可能な限り迅速に進歩させることを目的としている。市場のモデル開発競争に対する明確な自社のスタンスを定義している事例。[ii]

Mistral AI 「オープンなアプローチが検閲や偏見と闘う道である」

AI へのオープンなアプローチが必要であることを提唱。コミュニティに支えられたモデル開発こそが、未来を形作るテクノロジーにおける検閲や偏見と闘う最も確実な道であることを明言。
独自のモデルを開発・公開し、コミュニティの貢献を促進することで、特定の AI 企業による寡占に対抗し、信頼できる選択肢を構築できる、という考えのもと、AI モデル開発を進めている。[iii]

Apollo Research 「モデルに対する第三者の監査人として機能する」

AI ガバナンスを堅牢にすることを目的とした組織。評価研究組織として、AI ラボの最先端モデルに対する第三者の監査人として機能し、欺瞞的な AI が開発され、展開される可能性を減らすことを目指している。[iv]

EvolutionaryScale 「生物学をプログラミングし、より良い世界を築く」

生物学のための言語モデルを開発。モデルによって、生物学に対する理解を変えるような新たな科学的発見をし、病気の治療法を見つけることに役立ち、より持続可能な世界を構築することを目指している。[v]

Hugging Face 「優れた機械学習を民主化する」

機械学習コミュニティのためのコラボレーションプラットフォームを提供。次世代の機械学習エンジニア、科学者、そしてエンドユーザーが学び、協力し、成果を共有することで、オープンで倫理的な AI の未来を共に築くことを目的としている。[vi]

最後に/JAFCO からのお願い

本レポートでは、労働力市場への Agentic AI の本格的な進出、モデル開発の更なる加速を鑑みて、中長期視点でのイデオロギーの変化について、仮説を述べました。労働や時間の過ごし方、組織/個人の捉え方が変化していった先には、時代の潮流を捉えた新たな形の組織が生まれる可能性を秘めています。

組織のスタンスが重要となる中、起業家の皆さまにとっては、以下の問いが出発点になるかもしれません。
・市場、顧客はどのようなスタンスやラベリングを求めているのか？
・自社のビジョンやミッションの根源にあるものは何か？
・AI を前提とした新しい組織設計の中、何でアルファを出していくのか？

ヒトと AI それぞれが価値を出す領域、互いの相乗効果の生み方、組織・個人のアイデンティティなど、様々な新しいイシューが生まれています。それほど、大きなマクロ変化が生じているのです。
このマクロ変化を捉え、新たな挑戦を素早く起こせるのはスタートアップです。
リスクを取り、新たな価値創造に挑むすべての起業家の皆さまに深い敬意を表すると共に、本資料が皆さまの挑戦を加速させる一助となれば幸いです。

起業家の皆様へ

当社はこれまで 4000 社以上の会社に投資を行い、創業から IPO や M&A に至るまで様々なステージを起業家の皆様と共に歩んできました。創業から事業を軌道に乗せ、さらに大きく拡大していく過程では、さまざまなことが起こります。しかし、その中にはベンチャーに共通の課題も多く、当社の知見を活かすことで解決可能なものも少なくないと考えています。
50 年以上にわたるベンチャー投資の中で、当社は多くの成功と失敗を起業家の方々と共に体験してきました。その経験を次の起業家と共有し、事業を共に創り出すことが弊社の役割だと考えています。起業をお考えの方、資金調達をご検討されている方は是非ご相談ください。

著者

上岡 博雄 | hiroo.kamioka@jafco.co.jp
早稲田大学基幹理工学部表現工学科を卒業後、IGNITION POINT GROUP を経て、2024 年 9 月当社入社
【主な投資先】 アディクシィ
【X アカウント】 @hrkmok

堀ノ内 友馬 | yuma.horinouchi@jafco.co.jp
東京大学農学部応用生命科学課程生命化学・工学専修を卒業後、2023 年 4 月当社入社
【主な投資先】 シンプルフォーム
【X アカウント】 @horinouchiyuma

※当社に所属するキャピタリストの一覧はこちらをご覧ください。

投資仮説 AI レポート バックナンバー

- 第 1 号：生成 AI の注目ポイント 日本市場で注目される 5 つのポイントとこれから期待される領域についての簡易アイデア
- 第 2 号：AI×BPO ～LLM が革新するアウトソーシングの未来～
- 第 3 号：海外事例から考察する、日本流 AI ビジネス～顧客起点で再考する Post PoC 時代の仮説～
- 第 4 号：AI ラッパーに価値はないのか？～生成 AI 時代の持続的競争優位の構築戦略～

JAFCO について

JAFCO は、1973 年の設立以来、常に時代をリードする起業家とともに歩んできました。国内外における運用ファンドの出資約束金額は累計で 1 兆円を超え、累計上場社数も 1,000 社以上にのぼります。ベンチャー投資に加えてバイアウト投資も展開しており、パーパスとして「挑戦への投資で、成長への循環をつくりだす」を掲げ、革新的な技術・サービスの創造にコミットしています。起業家のいちばん近くにあって、その「志」を実現したいという想いのもと、HR、マーケティング・セールス、バックオフィスなども支援しています。
当社オウンドメディア「&JAFCOPOST」で起業家インタビューや投資先支援、JAFCO に関する発信を行っています。今後、業界レポート等も継続的に発信していくので是非ご覧ください。

▼JAFCO 公式メディア
- HP： https://www.jafco.co.jp/
- Facebook：https://www.facebook.com/JAFCO.PR/
- X（JAFCO）：https://x.com/JAFCO_PR
- X（JAFCO｜スタートアップ トレンド情報発信）：https://x.com/jafco_intern
- YouTube：https://www.youtube.com/@JAFCO_PR

▼起業・資金調達に関するお問い合わせ（リンク先または前ページ記載のキャピタリストまでお気軽にご連絡ください）
https://www.jafco.co.jp/contact/business/

▼メディア掲載・取材に関するお問い合わせ
https://www.jafco.co.jp/contact/media/

ジャフコ投資仮説レポート 2026

Copyright © 2026 ジャフコ グループ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第 1693 号
加入協会／一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

本資料は、起業家に対する情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の勧誘や、投資家に対する情報提供を目的としたものではありません。また、本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成していますが、その正確性、確実性、情報や意見の妥当性等を保証するものではありません。また、記載した見解は、必ずしも会社の立場、戦略、意見を代表するものではありません。掲載された内容によって生じた直接的、間接的な損害に対しては、責任を負いかねますので、ご了承ください。
本資料の一部または全部を、複写、写真複写、あるいはその他如何なる手段において複製することを禁じます。

[i] https://www.anthropic.com/news/claude-opus-4-6

[ii] https://ssi.inc/

[iii] https://mistral.ai/

[iv] https://www.apolloresearch.ai/

[v] https://www.evolutionaryscale.ai/

[vi] https://huggingface.co/